

平成 30 年度  
普通会計決算の状況（速報）

令和元年 8 月  
石 卷 市

1	決算概要	1
2	歳入の状況	4
3	歳出の状況	5
4	市債現在高の状況	6
5	基金現在高の状況	7
6	経常収支比率の状況	8

本資料は、特に記載のない限り、地方財政統計上全国的に用いられている「普通会計」の数値を記載している。

本市の普通会計には、一般会計（一部を除く）と特別会計の一部（土地取得特別会計、市街地開発事業特別会計（一部除く）及び産業用地整備事業特別会計（一部を除く））が含まれる。

## 1 決算概要

### (1) 歳入歳出の状況（3頁【表1】、4頁【図1】、5頁【図3】）

- ① 歳入総額は250,416百万円で、前年度に比べて15,296百万円、6.5%増加した。
- ② 歳出総額は208,185百万円で、前年度に比べて17,915百万円、9.4%増加した。

#### <増加の主な要因>

下水道事業特別会計繰出金（東日本大震災関係分）、東日本大震災復興交付金基金費、漁港災害復旧事業など、復興関連事業の進捗に伴い事業費が増大した。

- ③ 歳入歳出差引額から翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支は7,927百万円の黒字で、前年度の実質収支との差額が単年度収支となり504百万円の黒字となった。単年度収支に財政調整基金の積立・繰入による影響を控除した実質単年度収支は、2,395百万円の赤字となった。

### (2) 市債現在高・積立金の状況（3頁【表1】、6頁【図5】、7頁【図7】）

#### ① 市債現在高

市債現在高は77,322百万円で、前年度に比べて295百万円、0.4%増加し、臨時財政対策債等を除く通常債の残高は、48,090百万円で、前年度に比べて646百万円、1.4%増加した。

#### <増加の主な要因>

学校施設等の整備に伴う教育関連事業債の増など。

#### ② 積立金（基金）現在高

積立金（基金）現在高は123,142百万円で、前年度に比べて8,334百万円、6.3%減少した。

#### <減少の主な要因>

各種復興事業の進捗に伴う東日本大震災復興交付金基金の取崩しによるもの。

### (3) 各指標の状況（3頁【表1】、6頁【図5】、8頁【図9】）

#### ① 財政力指数

標準的な行政活動を行うために必要な財政需要に対する市税収入等の割合を示す財政力指数は0.53で、前年度に比べ0.01ポイント上昇した。

#### ② 経常収支比率

経常収支比率は 99.9%で、前年度と比べ 0.2 ポイント上昇した。

また、減収補てん債（特例分）及び臨時財政対策債を経常一般財源等から除いた場合の経常収支比率は 105.0%で、前年度に比べ 0.2 ポイント低下した。

③ 実質公債費比率

実質的な公債費（地方債の元利償還金）が財政に及ぼす負担を表す指標である実質公債費比率は 9.5%で、前年度に比べ 0.8 ポイント低下した。

(4) 他の類似団体との比較（平成 30 年度ベース）

① 自主財源比率

地方公共団体における財政構造の自主性と安定性を図る尺度として使用される自主財源比率（自主財源の歳入総額構成比）は 52.3%で、類似団体平均 57.3%を 5 ポイント下回った。（4 頁【図 2】）

② 投資的経費比率

投資的経費比率は 28.3%で、類似団体平均 12%を 16.3 ポイント上回った。

（5 頁【図 4】）

③ 実質公債費比率

実質公債費比率は 9.5%で、類似団体平均 3.7%を 5.8 ポイント上回った。

（6 頁【図 6】）

④ 市民一人当たりの市債現在高

市民一人当たりの市債現在高（年度末現在の市債現在高をその時点における住民基本台帳登録人口で除したもの）は 53.8 万円で、類似団体平均 30.7 万円を 23.1 万円上回った。

（6 頁【図 6】）

⑤ 基金現在高

基金現在高は 123,142 百万円で、類似団体平均 11,604 百万円を 111,538 百万円上回った。

（7 頁【図 8】）

⑥ 経常収支比率

経常収支比率は 99.9%で、類似団体平均 89.6%を 10.3 ポイント上回った。

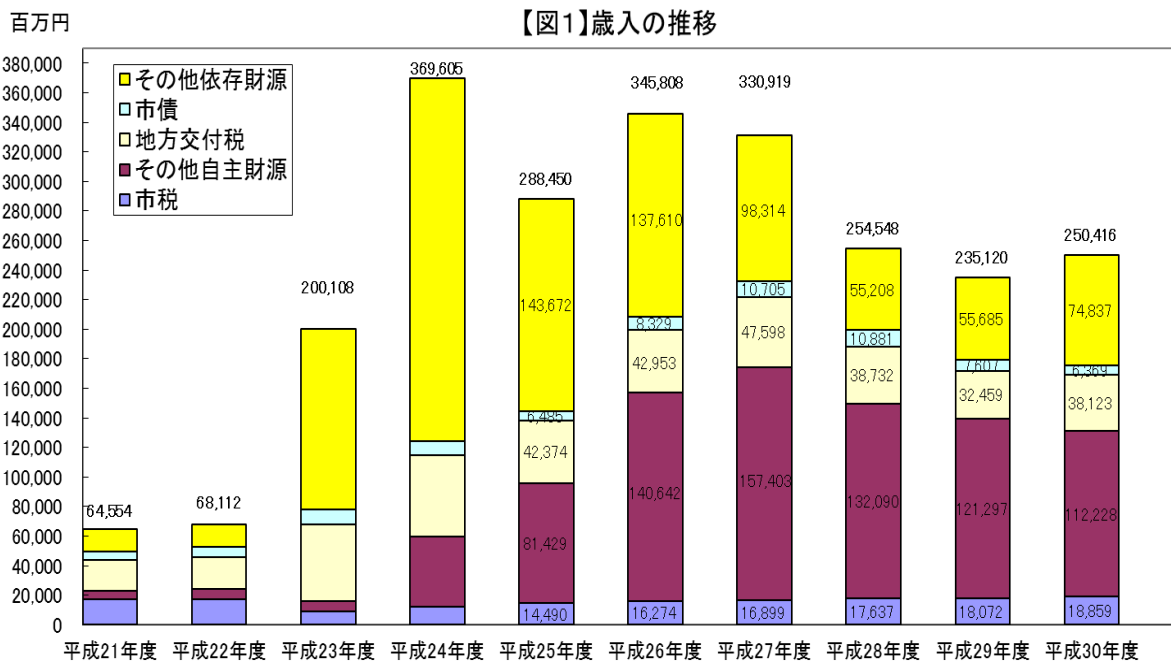
（8 頁【図 10】）

【表1】決算概要の推移

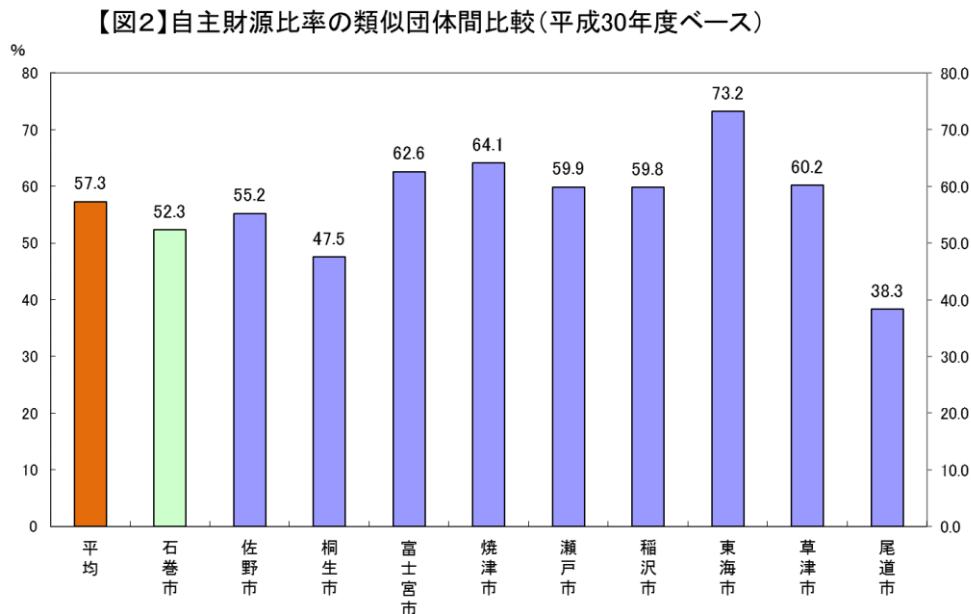
(単位：百万円、%)

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (速報値)	増減率				
							平成25年度比	平成26年度比	平成27年度比	平成28年度比	平成29年度比
歳入決算額	288,450	345,808	330,919	254,548	235,120	250,416	△ 13.2	△ 27.6	△ 24.3	△ 1.6	6.5
市税	14,490	16,274	16,899	17,637	18,072	18,859	30.2	15.9	11.6	6.9	4.4
( )は構成比	(5.0)	(4.7)	(5.1)	(6.9)	(7.2)	(7.5)					
地方交付税	42,374	42,953	47,598	38,732	32,459	38,123	△ 10.0	△ 11.2	△ 19.9	△ 1.6	17.4
( )は構成比	(14.7)	(12.4)	(14.4)	(15.2)	(13.0)	(15.2)					
市債	6,485	8,329	10,705	10,881	7,607	6,369	△ 1.8	△ 23.5	△ 40.5	△ 41.5	△ 16.3
( )は構成比	(2.2)	(2.4)	(3.2)	(4.3)	(3.0)	(2.5)					
歳出決算額	244,659	302,021	281,121	201,678	190,270	208,185	△ 14.9	△ 31.1	△ 25.9	3.2	9.4
人件費	11,321	11,730	11,980	12,062	12,238	11,858	4.7	1.1	△ 1.0	△ 1.7	△ 3.1
( )は構成比	(4.6)	(3.9)	(4.3)	(6.0)	(5.9)	(5.7)					
扶助費	10,075	10,862	10,877	11,481	11,877	11,725	16.4	7.9	7.8	2.1	△ 1.3
( )は構成比	(4.1)	(3.6)	(3.9)	(5.7)	(5.7)	(5.6)					
公債費	8,826	10,412	8,236	9,845	5,931	6,556	△ 25.7	△ 37.0	△ 20.4	△ 33.4	10.5
( )は構成比	(3.6)	(3.4)	(2.9)	(4.9)	(2.8)	(3.1)					
投資的経費	53,844	115,086	126,895	93,272	73,256	58,972	9.5	△ 48.8	△ 53.5	△ 36.8	△ 19.5
( )は構成比	(22.0)	(38.1)	(45.1)	(46.2)	(35.2)	(28.3)					
歳入歳出差引	43,791	43,787	49,798	52,870	44,850	42,231					
翌年度への繰越財源	34,428	37,360	39,217	40,028	37,348	34,304					
実質収支	9,363	6,427	10,581	12,843	7,502	7,927					
単年度収支	△ 45	△ 2,936	4,155	2,262	△ 5,341	504					
基金積立金	3	3	254	2	104	2					
繰上償還額	0	0	0	0	19	0					
基金取崩し額	1,300	9,100	3,100	4,400	6,700	2,900					
実質単年度収支	△ 1,342	△ 12,033	1,309	△ 2,136	△ 11,918	△ 2,395					
指 数 等	財政力指数 (3ヶ年平均)	0.47	0.48	0.49	0.51	0.52	0.53				
	経常収支比率 (臨時財政対策債等含む)	96.3	96.7	91.3	98.9	99.7	99.9				
	実質公債費比率	15.0	15.9	15.2	13.4	10.3	9.5				
	将来負担比率	63.0	55.9	48.5	25.1	7.1	0.0				
	起債制限比率										
市債現在高	71,165	69,924	73,147	74,806	77,027	77,322	8.7	10.6	5.7	3.4	0.4
基金現在高	215,964	215,695	186,065	152,084	131,476	123,142	△ 43.0	△ 42.9	△ 33.8	△ 19.0	△ 6.3

## 2 歳入の状況



- ① 市税は 18,859 百万円で、前年度に比べて 787 百万円、4.4%の増となった。
- ② 地方交付税は 38,123 百万円で、前年度に比べて 5,664 百万円、17.4%の増となった。
  - ・普通交付税 15,631 百万円 (525 百万円、3.3%減)
  - ・特別交付税 1,528 百万円 (21 百万円、1.4%増)
  - ・震災復興特別交付税 20,963 百万円 (6,167 百万円、41.7%増)
- ③ 市債発行額は 6,369 百万円で、前年度に比べて 1,238 百万円、16.3%の減となった。
- ④ その他依存財源のうち国庫支出金は 64,247 百万円で、前年度に比べて 17,817 百万円、38.4%の増となった。
- ⑤ 自主財源比率は 52.3%で、前年度に比べて 7.0 ポイント低下した。

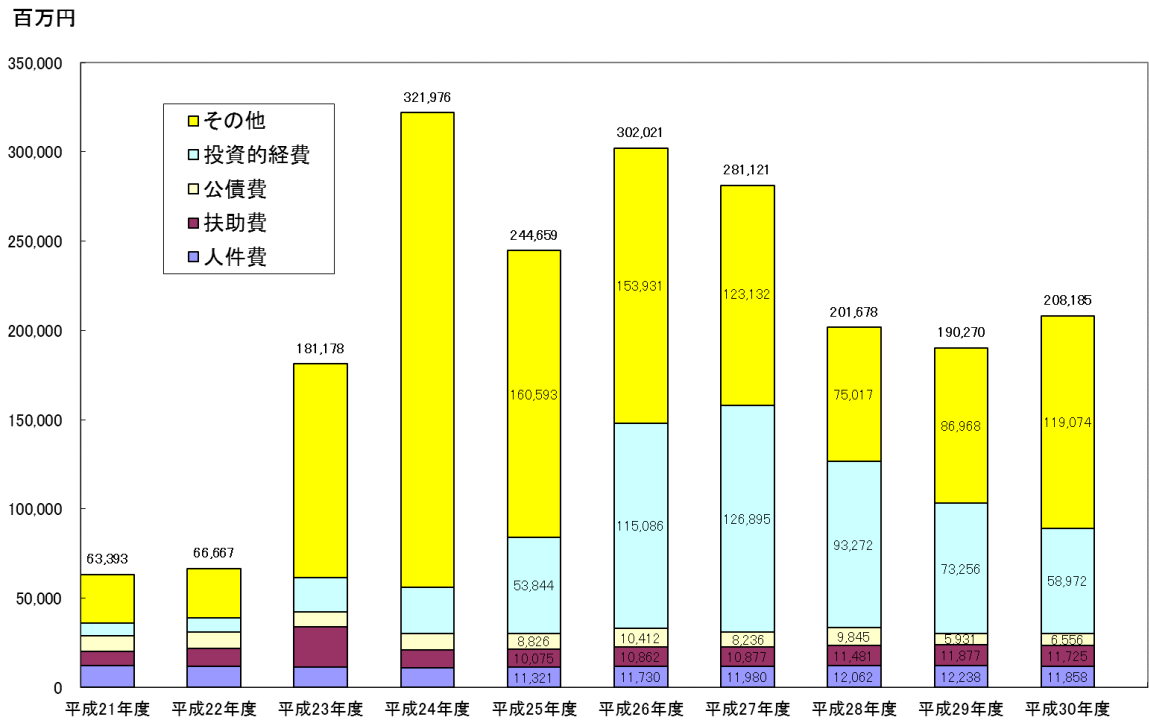


※類似団体平均は単純平均

※自主財源比率が高いほど、地方公共団体の財政面での自主性と安定性が高いと言われている。

### 3 歳出の状況

【図3】歳出の推移



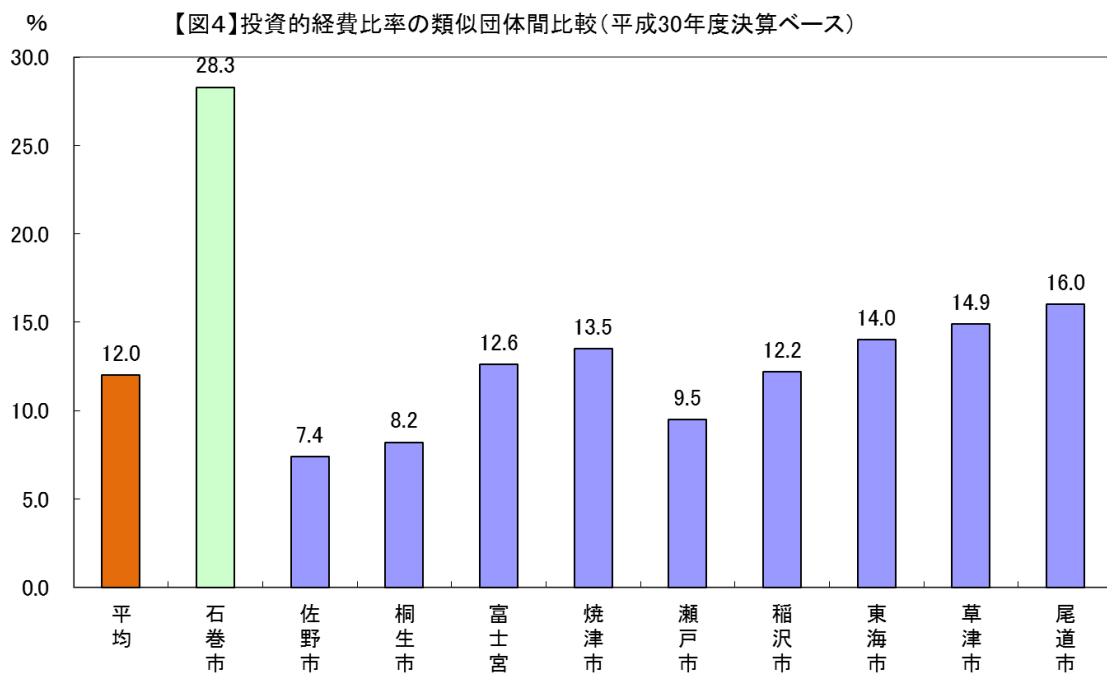
① 人件費、扶助費及び公債費で構成される義務的経費の合計は30,139百万円で、前年度に比べて全体で93百万円、0.3%の増となった。

また、義務的経費の歳出総額構成比は14.5%で、前年度に比べて1.3ポイント低下した。

② 投資的経費は58,972百万円、前年度に比べて14,284百万円、19.5%の減となった。

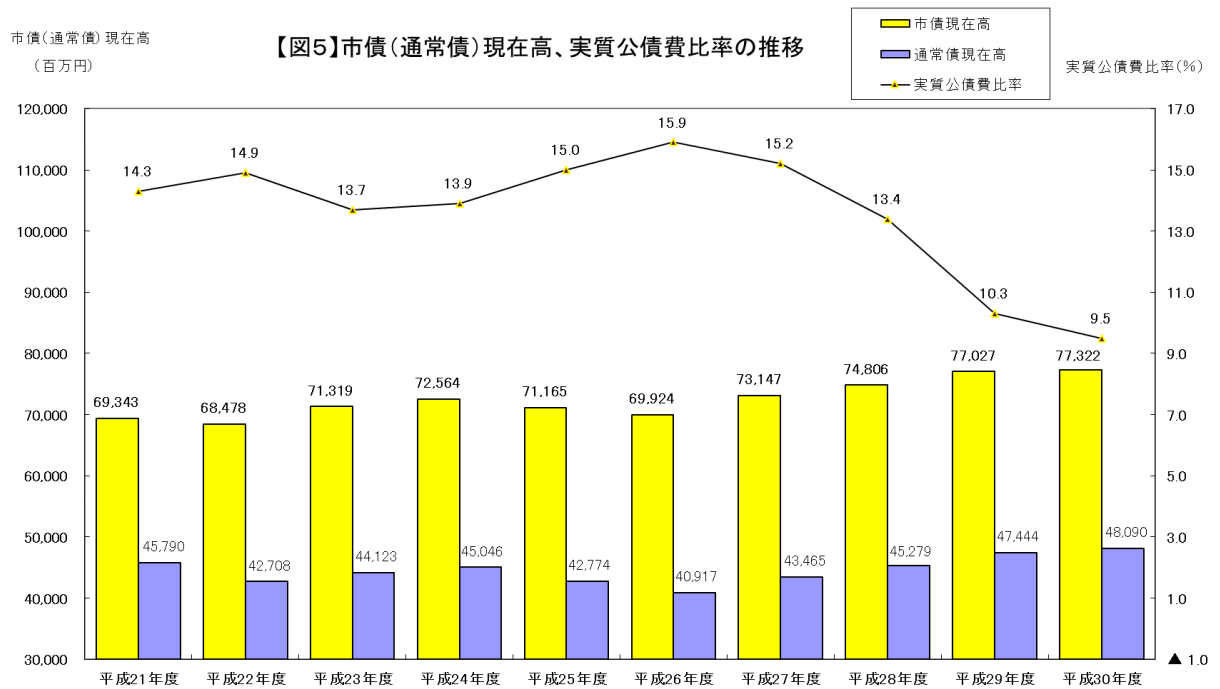
また、投資的経費の歳出総額構成比は28.3%で、前年度に比べて10.2ポイント低下した。

【図4】投資的経費比率の類似団体間比較(平成30年度決算ベース)



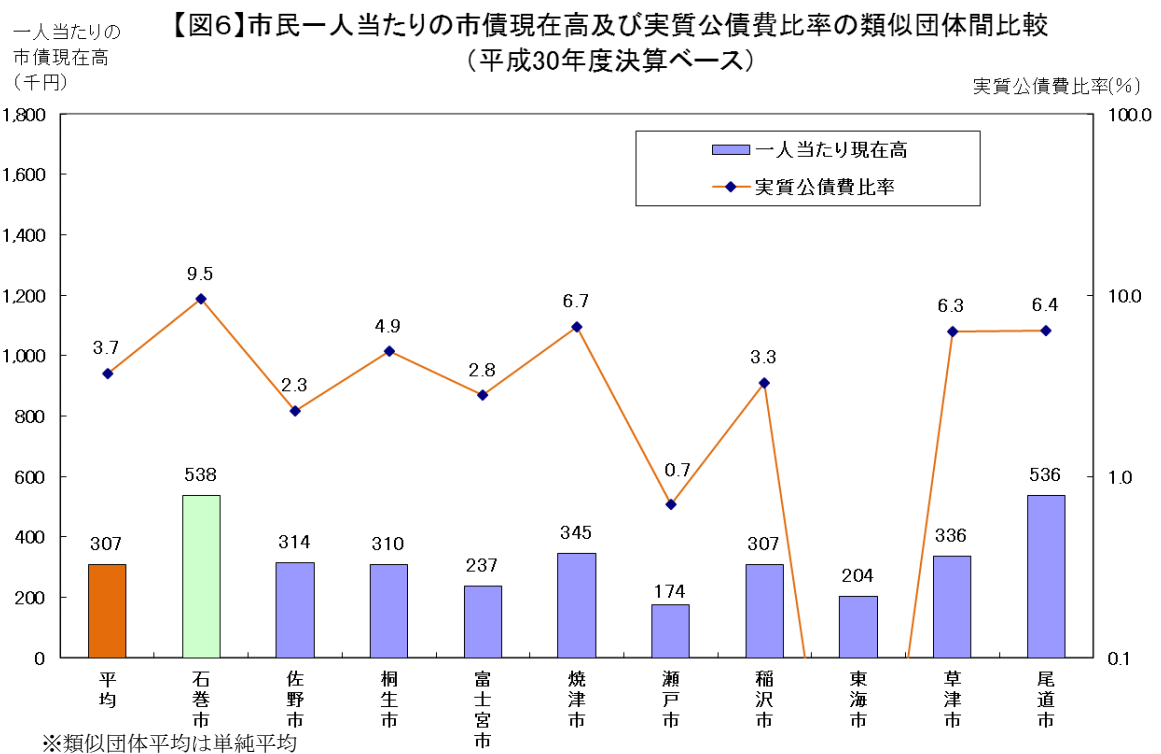
※類似団体平均は単純平均

#### 4 市債現在高の状況



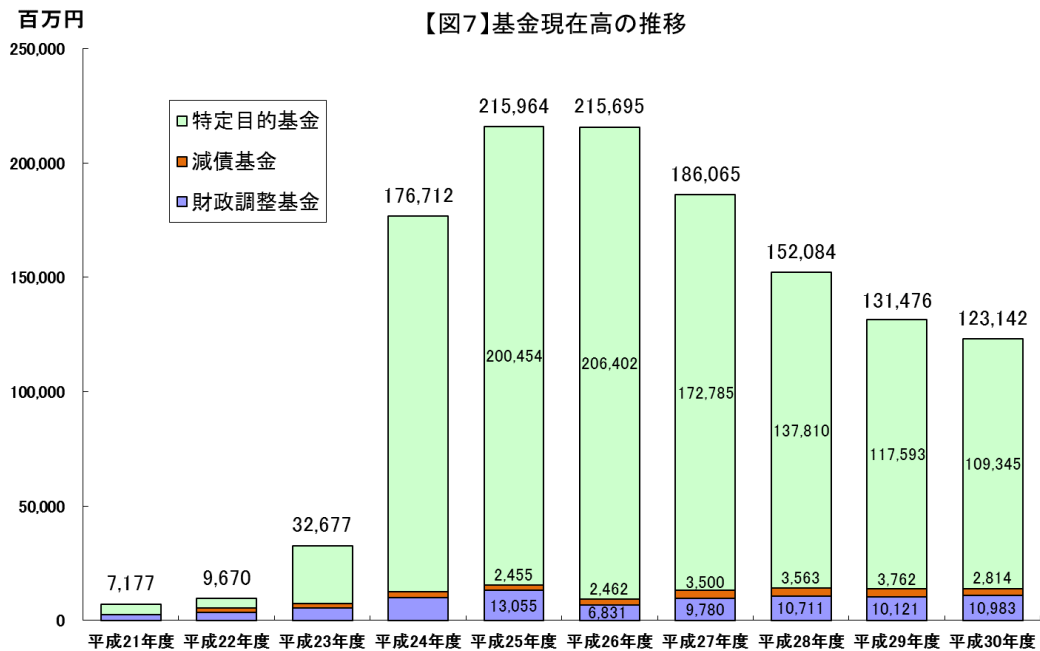
平成30年度末における市債残高77,322百万円のうち、臨時財政対策債等を除く通常債の残高は48,090百万円で、前年度に比べて646百万円、1.4%の増となった。

※「臨時財政対策債等」に含まれるのは、減税補てん債、臨時税収補てん債、臨時財政対策債、減収補てん債(特例分)、退職手当債である。





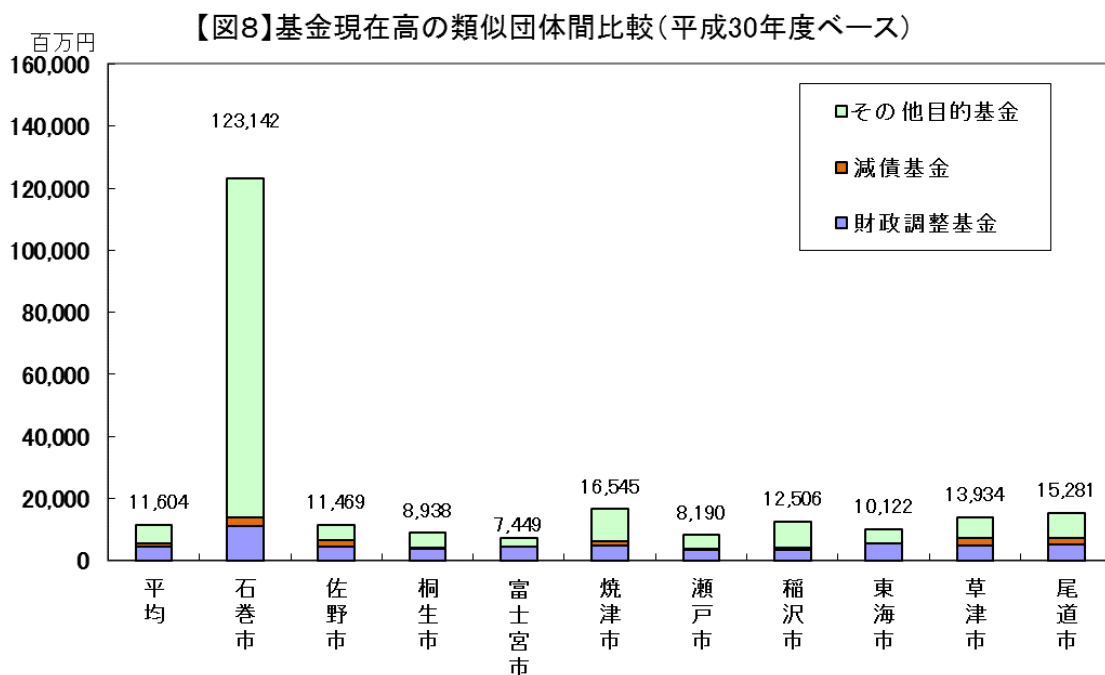
## 5 基金現在高の状況



① 平成30年度末における基金残高123,142百万円のうち、財政調整基金の残高は10,983百万円で前年度に比べて862百万円、8.5%の増、減債基金の残高は2,814百万円で前年度に比べて948百万円、25.2%の減、その他特定目的基金の残高は109,345百万円で前年度に比べて8,248百万円、7.0%の減となった。

② 市民一人当たりの基金残高は85万7千円で、前年度に比べて4万7千円の減となった。

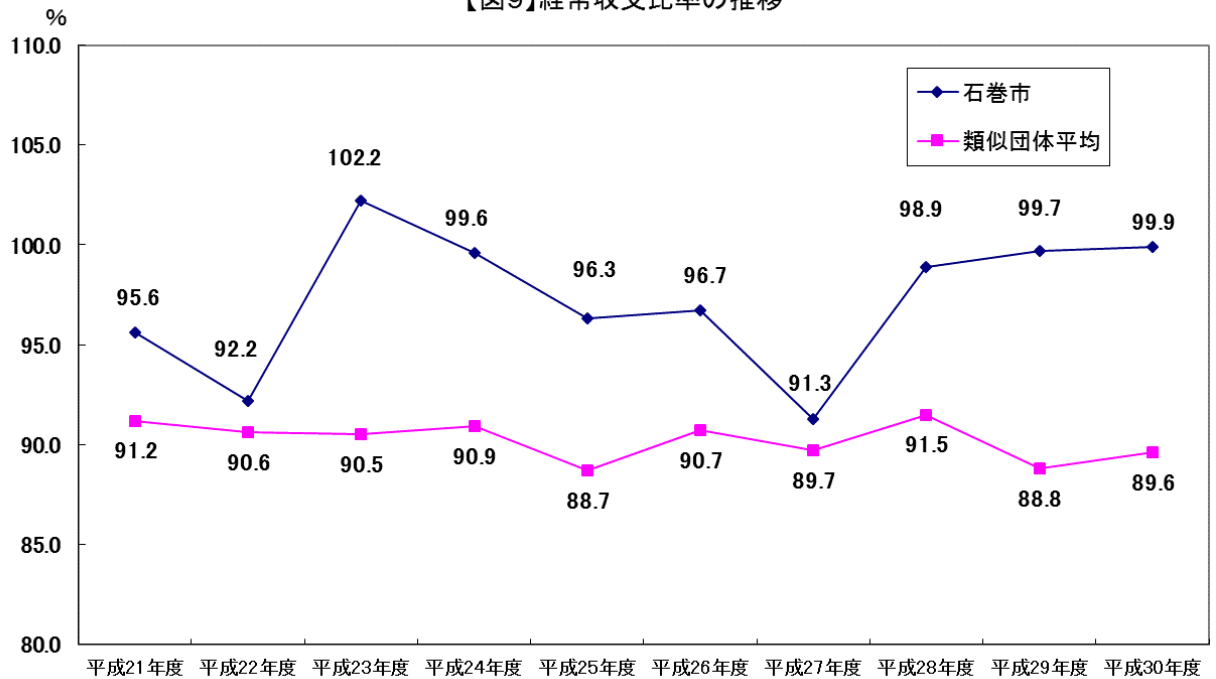
(※年度末現在の基金残高をその時点における住民基本台帳登録人口で除したもの)



※類似団体平均は単純平均

## 6 経常収支比率の状況

【図9】経常収支比率の推移



※経常収支比率は一般財源に臨時財政対策債等を含む数値

※類似団体平均は総務省で定めた類似団体の加重平均

- ① 経常収支比率は、市税や地方交付税等の経常的な収入のうち、人件費、扶助費、公債費及び物件費等の経常的な支出に充てられた割合を示し、当該団体の財政構造の弾力性を測定するための指標として用いられる。
- ② 経常収支比率は、その比率が高いほど臨時の財政需要に余裕がなく、財政構造が硬直化している状況にあることを示す。

【図10】経常収支比率の類似団体間比較(平成30年度ベース)

